



名前 持田慧史郎
出身大学 群馬大学
卒業年度 平成31年



妻は喫茶店を経営しております。自分もできる範囲でお手伝いをしています。もし機会がありましたらぜひお越しください。



地元のハロウィンイベントに出店したときの様子。他の出店者の方も交えて。



未だに人生最初に聴いた(と思われる)レコードは手元に残っています。今はレコード集めが趣味のひとつになっています。

.....

新入局のごあいさつ

今年度放射線科に入局しました持田慧史郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

入局に際して自己紹介をとお話をいただき、さて何をお話すればよいのかと悩んでいたのですが、もし学生の皆さんで同じような「波長」の人がいて、そんな人に自分の「波長」が共鳴すればいいなと思い、恥ずかしながら紆余曲折だらけの私の半生や放射線科との出会い、近況についてお話させていただければと思います。

出身は埼玉県です。
小さい頃は宇宙ときのこが好きで、祖父と相撲を見たり、祖母とぬいぐるみでごっこ遊びをしていたのがいい思い出です。
人生で最初の記憶に残っている曲は父親に聞かされたクラフトワークのレコードでした。
そんな子供時代が影響してかはわかりませんが、好奇心は人一倍強く育ったのですが、しかしこれという進むべき道が決められないまま一度目の大学が終わってしまいました。
あんまり決めることができないので、見かねた親に進学を勧められ、色々な道に進むことができるらしいという理由だけで医学部に進むことになりました。

このように、実にフラフラしていたのですが、臨床実習に出るようになると流石に責任の重さを痛感させられました。
それと同時に、患者さんとの触れ合いを通じ、自分の進んでいる道にやりがいも感じるようになりました。
それでもやはり、自分の興味関心も大切にしたいという気持ちも捨てられずにおりました。

放射線科との出会いはそんな折でした。
最先端の研究を行いつつ、地域の医療とも真剣に向き合う姿勢。精力的に臨床・研究に励みつつも、ご家庭やご自身の時間・世界も大切にされている先生方。
そして多様性を尊重する科全体の雰囲気。
さんざん悩んだ進路でしたが、心のなかで入局を決めるまでそれほど時間はかかりませんでした。

今は埼玉県立がんセンターで4名の先輩方のもと、日々臨床に勤しんでいます。
まだ医師としては半人前もいいところですが、一例一例ときちんと向き合う、医療人の基本姿勢をみっちり教えていただいています。その傍ら、妻が喫茶店を経営しておりますので、時間が許すかぎり一緒に経営上の課題に取り組んだり、イベントに出店したり、お店がピンチのときは台所で皿洗いをしたりもしています。
ここでもまた、人生の大切なことを勉強させてもらっています。

以上、簡単にはなりますが自己紹介とし、入局の挨拶とさせていただきます。
未熟者ではございますが、精一杯吸収し、医局の発展に貢献できればと考えております。
どうぞよろしくお願い申し上げます。